



ラリー・ウィリアムズのパートナー なりた・ひろゆきと

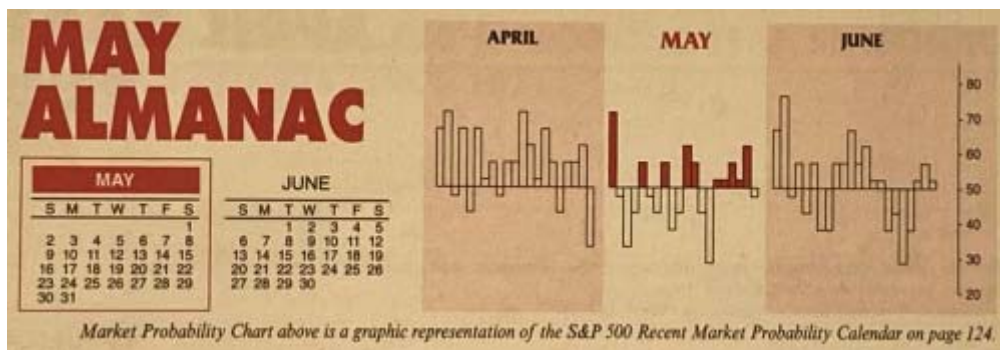
米アノマリーの第一人者、エール・ハーシュのあとを継いだ ジェフリー・A・ハーシュによる  
主要市場を分析した最新相場予測レポート！

▼▼▼ご購入の詳細はこちら▼▼▼

<http://trs.jp/p/5962/2011411200000>

2021年4月26日

### S&P 500 and DJIA Up Last 9 Post-Election Year Mays S&P500 とダウは選挙翌年の5月に過去9回上昇



5月は、ダウとS&Pにとって「ワースト6か月間」の始まり。格言：“5月に売れ！”はよく知られている。1986年に開発された当社の「ベスト6か月間スイッチング戦略」は、この古いトレーダーの話にメリットがあることを証明している。ダウに10,000ドルを投資したと仮定した場合、過去70年間で11月から4月までは960,943ドルの利益が得られたのに対し、5月から10月まではわずか1,656ドルと言う結果になっている。同じくS&P500に10,000ドルを投資した場合、過去70年間で11月から4月までの複利運用では788,997ドルに対し、5月から10月までの複利運用では10,145ドルの利益しか得られていない。

2010年5月6日の「フラッシュ・クラッシュ」の後、5月は長年にわたって厄介な月とされてきた。かつては、“5月と6月は災害エリア”と呼ばれていた時期もある。1965年から1984年まで、S&P500は20回のうち15回が5月に下落した。その後、1985年から1997年まで、5月は最高の月となり、S&Pは毎年(13回連続で)上昇し、平均で+3.3%上昇したが、ダウは1回、ナスダックは2回下落している。

1997年以降、5月のパフォーマンスは不安定で、ダウは過去23年間で12回上昇している(そのうち4回は+4%を超える上昇)。ナスダックは1998年から2001年まで5回連続して下落し、2000年には-11.9%の下落、その後は+2.5%を超える13回の大幅な上昇と5回の下落を繰り返し、2010年には最悪の-8.3%の下落となった。

選挙翌年の5月は、ダウとS&P 500の平均上昇率がそれぞれ+1.3%と+1.7%で上位にランクインしている。ダウとS&P 500は1985年以降、大統領選の翌年すべての5月は上昇している。ラッセル1000は選挙後の5月に10年連続で上昇している。

### Post-Election Year May since 1950

	Rank	Avg %	Up	Down
DJIA	4	1.3	11	6
S&P 500	3	1.7	11	6
NASDAQ*	2	3.4	10	2
Russell 1K**	3	3.0	10	0
Russell 2K**	1	3.9	9	1

\* Since 1971, \*\* Since 1979

© StockTradersAlmanac.com. All rights reserved.

「トレーダーズ・アルマナック」のジェフリー・ハーシュのレポートから一部を引用。

お申込はこちらから

<https://www.tradersshop.com/bin/showprod?a=17171&c=2011411200000>